

令和3年度通常代議員総会議案書

【審議事項】

- | | |
|-------|------------------------------------|
| 第1号議案 | 令和2年度事業報告並びに決算報告について |
| 第2号議案 | 任期満了に伴う理事1名の選任について |
| 第3号議案 | 任期満了に伴う監事2名の選任について |
| 第4号議案 | 学士会選挙管理委員会委員
及び 選挙区委員会委員の推薦について |

令和3年6月24日

一般社団法人 学士会

【審議事項】

第1号議案

令和2年度事業報告並びに決算報告について

I. 令和2年度事業報告（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

事業概況

令和2年度の事業報告を行うに当たり、未だに収束の兆しが見えない「新型コロナウイルス感染症」の蔓延—いわゆる「コロナ禍」による本会会務への甚大な影響について触れざるを得ません。令和3年度の事業計画においても触れました通り、今般の「コロナ禍」により、本会を取り巻く経営環境・事業環境は著しく悪化し、本会にとって令和2年度は大変に厳しく且つ深刻な一年となりました。

本会の事業活動を経済的な意味で支えている会館運営事業は前年実績の25%程度まで落ち込み、会館運営を委託している100%子会社の経営を危うくすると共に、本会も会館運営収入の激減により、事業活動収支は大幅な赤字に陥ることになりました—詳しくは「令和2年度決算報告」をご覧ください。

事業活動においては、「3密」回避の流れの中で、後述の通り本会の代表事業でもある午餐会・夕食会、更には会員各層に向けた各種イベントの多くが中止又は延期を余儀なくされました。

更に、新規入会者の獲得に大きな役割を果たしてきました7大学における卒業式・修了式当日の「入会勧誘活動」も、2年続けての卒業式の縮小、変則開催により思うような実施が出来ず、その結果、新卒入会者の大幅減に繋がると共に学士会館の利用の制限や事業活動の縮小に伴う新規入会者の減少及び退会者の増加とも相まって会員数の減少傾向に一層の拍車がかかる結果となりました。

新年度を迎えてもこの状況は一向に収まりを見せておらず、3度目の「緊急事態宣言」が発出されるなど予断を許さない状況が続いておりますが、この間、その利便性や効用が顕著になってきましたICTの積極的活用—デジタル化の促進による事業の活性化を目指しながら、令和3年度は事業計画で定めた諸課題、諸事業に取り組んでまいります。

以下、令和2年度の実施事業についてその概要を報告致します。

令和2年度の本会は、取り組むべき重点課題として以下の3点を掲げ、「コロナ禍」による活動の制限を受けながらも当該課題に対して積極的な取り組みを行うとともに、定款に定める各種事業を実施してきました。

令和2年度の各事業の実施状況は後段にて詳述致しますが、以下、重点課題に対する取り組み結果について報告致します。

(1) 学士会館の再開発問題に向けた本格的活動の展開・推進

本課題に対する実施状況は、令和3年3月16日開催の令和2年度臨時代議員総会において報告された内容（「学士会館の再開発問題の進捗状況について」）の通りですが、本年度は『学士会館の整備に関する基本方針』に基づき、「学士会館再開発委員会」（委員長：桐野高明常務理事）の下で、共同開発に向けた隣地所有者との交渉を重点的に行うとともに、今般の「コロナ禍」による本会の財務状況の悪化や不動産市場への影響等を踏まえ、当初の再開発計画案の再検証を行ってきました。

学士会館の再開発問題に関しては、前面道路である白山通りの拡張計画と歴史的建造物である学士会館の保存との調整、それに関連して隣地所有者に対する共同開発への働きかけと利害調整の実施、共同開発と単独開発との利害得失の検討、そして何よりも再開発事業を実施する上での資金調達の見込み等、実現のためにクリアしなければならない課題が数多くあり、その実現は決して簡単なものではありませんが、本課題については、来期以降も引き続き精力的に取り組んでまいります。なお、共同開発実現の可否につきましては、令和3年度中にはその見通しが明らかになるものと考えております。

今後、本件に関し重要な意思決定が必要となる場合は、理事会の決議や定款の定めるところにより代議員総会の承認を得るなど、所要の手続きを踏みながら進めてまいります。

(2) 本会の魅力作りに向けた活動の展開・継続実施

会員にとって本会の存在や活動を一層魅力あるものにするため、『學士會会報』や講演会（午餐会・夕食会等）の企画に際しては、会員にとって興味・関心の高いテーマの選定に努めるとともに、魅力ある執筆陣・講師陣の人選に努めてまいりました。また、会員各層（シニア会員、若手会員、学生会員、地域会員等）のニーズに応えるべく、当該会員にとって魅力のあるプログラムの開発・提供にも学士会館ともども取り組んで来ました。然しながら、後述の通り、新型コロナウイルス感染拡大防止対策より、「午餐会・夕食会」においては休会（6回）や食事提供を取りやめ講演会のみでの開催（6回）が多く発生いたしました。また、地域講演会においても北海道地区は次年度に延期、東北地区は開催中止となり、その他、各種会員向けイベントについても予定を大幅に変更せざるを得ない状況となりました。

一方、会員のニーズに応えるべく本会事業のデジタル化の一環として、本年度は、『会員氏名録』にかわるデジタル版会員名簿「Web名簿閲覧システム」の公開を開始し、会員検索の他、自身の登録情報の確認や変更をWeb上で行えるようになりました。更には、前年度から試行的に進めてきました講演会（午餐会・夕食会）の録画配信を、本年度5月より開始致しました。令和3年度はリアルタイムでの動画配信実現に向けて、課金システム等の検討も含め、準備を進めていく予定です。

(3) 七大学及び関連同窓団体との良好な協力関係の構築と連携・協働事業の実施

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の一環として七大学において卒業式・修了式への参加者が限定され、例年のような卒業生・修了生に対する組織的な入会勧誘活動が実施できないという事態となり、前年度に引き続き思うような新入会者の獲得には繋がりませんでした。

一方、一昨年度より各大学の理解・協力を得て進めてきました新入学生に対する「学生会員」への入会勧誘活動は本年度も活発に行う事ができ、多くの入会者（登録者）を得ることが出来ました（702名）。

平成29年度より実施している卒業生・同窓会を所管する各大学の責任者・関係者による意見交換会（「七大学同窓会担当事務局連絡会議」）を11月に開催し、本年度は特にコロナ禍における同窓会活動について各大学が抱える課題と今後の施策等について、忌憚のない意見交換・情報交換を行うことができました。

以下、各事業別にその概要を報告致します。

1. 会 報 （ 『學士會会報』 及び 『NU7』 ）

本会会報である『學士會会報』と『NU7』を隔月に同時発行致しました。『學士會会報』は第942号を令和2年5月、第943号を7月、第944号を9月、第945号を11月、第946号を令和3年1月、第947号を3月にそれぞれ発行し、全会員に配布致しました。また、『學士會会報』は七大学各学部図書館に寄贈する他、国立国会図書館や各県立図書館等へも毎号寄贈し、本会の目的でもある“学術的文化的知識の交流普及”に努めました。

七大学総合情報誌として平成27年9月より発行している『NU7』は、第29号を令和2年5月、第30号を7月、第31号を9月、第32号を11月、第33号を令和3年1月、第34号を3月にそれぞれ発行し全会員に配布するとともに、七大学関係者にも広く配布し、会員増強に資するよう努めました。

また、本年度より、希望する学生会員へ『學士會会報』と『NU7』の配布を開始致しました。現在、約200名の学生会員に配布をしております。

2. 学士会館

(1) 会館の利用実績は次の通りです。

なお、本年度はコロナ禍による「緊急事態宣言」の発出に伴い、4月11日～5月31日の51日間に亘り、全館休館（休業）致しました。

□会議室利用回数	1,209回	(3,527回)	※カッコ内は前年度の実績
□会議室利用人員	26,160名	(136,215名)	} ※延べ人数 計 101,668名 [1日平均333名] 臨時休業日・年末年始を除く
□宿泊室利用人員	2,187名	(7,235名)	
□レストラン等利用人員	66,031名	(130,259名)	
□読書室利用会員	1,362名	(2,311名)	
□会員倶楽部室利用会員	5,928名	(8,774名)	

(2) 会館を適切に維持・保全するために、次の通り会館の補修・改修工事を行いました。

本年度はコロナ禍による学士会館営業収入の減少（財務悪化）を踏まえて、当初予定していた多くの改修工事の実施を見送りましたが、会館営業に必要な最小限の諸工事を以下の通り実施しました。

- ・「ラタン・セブンズハウス」空調機交換工事、排水ポンプ交換工事
- ・「セブンズハウス他」漏水補修工事
- ・「旧館3階 男子手洗所」温水器交換工事

上記の他にも、会館営業に支障をきたす事項に対しては、適宜補修工事等を実施しました。

(3) 学士会館の防火防災対策の一環として、次の通り実践的な防火防災訓練等を行いました。

- ・防火管理に係る訓練指導を神田消防署の署員から受講（11月）
- ・深夜における大地震と火災を想定した、学士会館従業員の防災時の対応訓練を実施（12月）

(4) 新型コロナウイルス感染防止対策として、以下の対応を行いました。

- ・来館者向けに「体温測定器（顔認証）」を南北玄関に設置
- ・毎日、館内各所の定期消毒を継続して実施

3. 講演会、談話会、その他の集会

本年度は、残念ながら予定をしていた各種イベント・企画の多くが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策（以下「新型コロナ感染対策」）の一環として中止や延期となりました。以下には中止となりましたイベント等の一部もその旨を注記した上で記載しております。

(1) 午 餐 会

本年度は次の通り、各分野で活躍される多彩な方々による講演会を開催しましたが、12月休会（例年通り）以外にも、新型コロナ感染対策の観点から4月、5月、1月を休会とし、また6月、7月、2月、3月は食事提供を取りやめ講演会のみで開催に変更しました。延639名の参会がありました。

心臓突然死を防ぐために	坂本 哲也 氏 (令和 2年 6月例会)
薬師寺国宝東塔大修理——10年の軌跡	松久保 伽秀 氏 (令和 2年 7月例会)
明智光秀の知られざる実像—光秀と京都を中心に—	
	河内 将芳 氏 (令和 2年 8月例会)
短歌の魅力	馬場 あき子 氏 (令和 2年 9月例会)

台風の強度測定と予測精度の向上に向けた航空機観測最前線

坪木和久氏(令和2年10月例会)

習近平体制の今後と日米中関係

國分良成氏(令和2年11月例会)

世界の見方ー北朝鮮、中国、米国

藤崎一郎氏(令和3年2月例会)

つくり手の言葉から作家(表現)の工芸を考える

唐澤昌宏氏(令和3年3月例会)

(2) 夕食会

本年度は次の通り、午餐会と同様に各分野で活躍される多彩な方々による講演会を開催しましたが、5月、8月、1月の休会(例年通り)以外にも、新型コロナウイルス感染対策により、4月、7月、2月を休会とし、また6月、3月は食事提供を取りやめ講演会のみで開催に変更しました。延493名の参会がありました。

国宝「鳥獣戯画」の謎に迫る

上野憲示氏(令和2年6月例会)

チバニアン of 全て～最後の地磁気逆転とチバニアンの誕生～

岡田誠氏(令和2年9月例会)

わが国から胃がん撲滅を目指す戦略とその成果

浅香正博氏(令和2年10月例会)

「平常への復帰」?ー大統領選挙後の米国政治と日米関係の行方

久保文明氏(令和2年11月例会)

新型コロナウイルス蔓延下における在宅医療

小堀鷗一郎氏(令和2年12月例会)

東日本大震災から10年～超巨大地震・津波の理解はどこまで進んだか?

佐竹健治氏(令和3年3月例会)

(3) 夏期講演会

本年度は次の通り、夏期講演会を開催し、82名の参会がありました。

現代社会のストレスにどう対処するか

久保千春氏(令和2年8月27日)

(4) 関西茶話会

関西地区の会員を対象とした関西茶話会を次の通り開催し、24名の参会がありました。

第41回「イタリア・ルネサンス庭園：知を想像する空間」

桑木野幸司氏(令和2年10月10日)

今回については、参加者数を50%に減じて募集し、講演会のみの実施と致しました。

なお、新型コロナウイルス感染対策のため、開催を予定していました以下の2回は休会致しました。

第39回「医薬品と食品のはざまにあるものー健康食品ってなんですか?」

伊藤美千穂氏(令和2年4月18日)

第40回「行動経済学を暮らしに活かす」

大竹文雄氏(令和2年6月20日)

(5) 見学会等

首都圏及び関西地域において、以下の通り見学会等を開催致しました。

[首都圏]

本年度は次の通り、見学会（解説付き）等を開催し、延47名（共に満員）の参会がありました。

「五輪代表選手に学ぶ初心者向けストレッチ教室」 (令和 2年 8月30日)

※後日、学士会会員交流サロン「謝恩の情」内「学士会主催イベント 動画チャンネル」において、
当日のストレッチ指導の一部を、会員限定・期間限定で動画配信致しました。

「チバニアンGSSP提案チーム代表 岡田誠先生と行くチバニアン見学会」

(令和 2年11月 8日)

[関西地区]

本年度は次の通り見学会を予定していましたが、新型コロナ感染対策の観点から開催を中止致しました。

「京都大学大学院薬学研究科附属薬用植物園見学会」—中止—

伊 藤 美千穂 氏 (令和 2年 5月16日)

(6) クリスマス家族会 (中止)

新型コロナ感染対策により、開催を中止致しました。

(7) 新年祝賀会

令和3年1月5日、佐々木毅理事長の新年の挨拶、賀宴、米澤賢一会員の謡曲披露の後、吉川真氏（「はやぶさ2」プロジェクトチーム ミッションマネージャ）による講演会（演題：「はやぶさ2地球帰還～挫折から掴んだ成果」）を開催し、121名の参会がありました。

(8) 学生会員向けイベント

本年度は次の通り、学生会員を対象としたオンラインイベントを提携協力企業との共催で開催し、延91名の参会がありました。

「2022～24年卒対象 就職活動スタートアップセミナー 1st」 (令和 2年 7月 2日)

「 〃 就職活動スタートアップセミナー 2nd」 (令和 2年 9月14日)

「 〃 就職活動スタートアップセミナー 3rd」 (令和 2年12月14日)

「2022年卒 就職活動解禁直前対策講座 ～面接実践編～」 (令和 3年 2月18日)

(9) 若手茶話会

45歳までの会員を対象とした茶話会（「ミニプレゼン会」「読書会」「Do Café」）を、若手会員の集まりである「学士会YELL」が主体となり、4月を除く各月に開催致しました。本年度はWeb会議システムを使用しオンラインで開催した他、9月には学士会館の会場とWebによるハイブリッドでの開催を実施し延308名の参会がありました。

<実施内容の一例>

「東京大学の学園祭、波乱の百年史～戦争、東大紛争、震災からコロナ禍まで～」(ミニプレゼン会)

佐 藤 寛 也 氏 (令和 2年 11月28日)

「理系男子が考える “欲望の資本主義”～私たちが挑む“命がけの跳躍”～」(ミニプレゼン会)

原 康 人 氏 (令和 3年 3月27日)

(10) 良縁企画

男性35歳～53歳、女性30歳～40歳の独身者に参加者を限定した良縁企画の第3回目を開催し、22名（男性・女性各11名）の参会がありました。募集開始早々に満席となり、キャンセル待ちも多数発生致しました。

「第3回 年代限定良縁パーティー」

(令和 3年 2月13日)

(11) イベント動画配信

コロナ禍により直接参加型のイベント開催が困難な中、少しでも学士会のイベントを身近に感じて貰うべく、「学士会主催イベント 動画チャンネル」において、イベント動画2本を会員限定・期間限定にて配信致しました。

【第1弾】「寄生虫研究者のはなし」

講師：高野 剛史氏（目黒寄生虫館 研究員）

内容：・海の寄生生物の紹介(標本より中身を取り出しながらの形、生態の紹介)

・寄生生物の採取

(魚の解剖にてアニサキス、テンタクラリアの採取、分類、記録等サンプル作りの一連作業)

・研究者の日常(研究作業場の紹介、論文用研究物撮影、顕微鏡下での組織採取作業)

【第2弾】「“自宅で出来る” おもしろ実験教室」

講師：左巻 健男氏（東京大学講師／元法政大学教授）

内容：・ぷよぷよ卵を作ってみる(浸透圧実験)

・手のひらでクエン酸と重曹を混ぜてみる(吸熱反応実験)

・カルメ焼きを作ってみる(熱分解実験)

(12) Zoom体験会・Webサロン

令和2年8月より、会員交流支援としてWeb会議システム（Zoom）の機能説明会並びに参加者同士の談話会を合計26回開催し、延387名の参会がありました。

また、Webを通じた会員同士の交流促進を目指し、Zoom体験会の参加者を中心に「Webサロン」を令和3年1月より毎月開催し、延45名の参会がありました。参加者は自発的に“再会企画”を行い、親睦を深めました。

(13) 地域講演会

本年度は、新型コロナ感染対策により北海道地区は令和3年度に開催を延期（講師：鈴木直道北海道知事）、東北地区は開催中止となりましたが、名古屋地区は初めての試みとしてオンラインでの開催を行うとともに、九州地区は大学関連施設にて講演会を開催し（懇親会は中止）、以下の通り参会がありました。

□名古屋地区（オンライン開催）

共催 学士会、名古屋大学全学同窓会

後援 名古屋大学

「宮廷文化の再発見」

所

功 氏 (令和 3年 2月22日)

(参加者：332名)

□九州地区（講演会のみ開催）

共催 学会、九州学会

「医学修行と文学修行」

後援 九州大学、九州大学同窓会連合会
帯 木 蓬 生 氏（令和 3年 3月13日）
（参加者： 91名）

(14) ホームカミングデイへの出店（中止）

新型コロナウイルス感染対策の観点より、各大学のホームカミングデイは、中止やオンラインでの開催が相次ぎました。その影響を受け、本年度は本会としてのホームカミングデイへの出店は叶いませんでした。

(15) サマーパーティー・クリスマスパーティー（中止）

東京大学校友会と共催で、独身者を対象とした若手交流会を7月と12月に予定していましたが、新型コロナウイルス感染対策のため、開催を中止致しました。

(16) ウェルカムビアパーティー（中止）

若手会員で構成する幹事団により本年度の新卒会員を招待する企画として計画していましたが、新型コロナウイルス感染対策のため、開催を中止致しました。なお、代替企画として新卒会員を対象としたオンライン交流会を6月27日に実施致しました。

(17) 七大学学生の集い

学生会員向けイベントとして、本会が特別協賛している「全国七大学総合体育大会（七大戦）」を盛り上げ、また主管校である大阪大学を応援する内容の企画案を検討しましたが、七大戦の中止により内容を変更し、初の試みとしてオンラインによる「七大学学生の集い」を開催致しました（令和2年12月5日）。その一環として「学会コンペ」（概要は以下参照）を実施し、提出された企画案から2作品を選出の上、当日の集いの中でプレゼンテーションを行って貰いました。発表後、審査員、プレゼンター、観戦者でブレイクアウトセッションを行い、親睦を深めました。

■学会コンペ（概要）

- ・テーマ 「コロナ禍に思う同窓会組織のこれから—学会というコミュニティの活かし方」
- ・エントリー数 30名 ・応募数 6作品
- ・結 果 □グランプリ

「学会の持続的発展に向けた実行プラン」（東京大学修士1年）

□準グランプリ

「学会に新しい風を」

（東北大学・名古屋大学・京都大学1年6名による混成チーム）

(18) 提携サービス紹介

提携企業が本会の会員向けに提供する各種サービス（引越し、機械警備、スポーツクラブなど）については、延81名の利用がありました。演劇・コンサートなどを紹介する「鑑賞ツアー」は、紹介した演目全てが残念ながら新型コロナウイルス感染対策により中止となりました。

4. 諸会議等

(1) 通常代議員総会

本年度の通常代議員総会を、令和2年6月18日学士会館において開催致しました。当日の出席代議員28名、委任状提出代議員1名、書面等による議決権行使代議員67名、合計96名の出席により総会が成立し、次の議案を諮りそれぞれ承認可決致しました。

- 議案1 令和元年度事業報告並びに決算報告について
- 議案2 任期満了に伴う理事14名の選任について
- 議案3 任期満了に伴う監事2名の選任について
- 報 告 学士会館の再開発問題の進捗状況について

(2) 臨時代議員総会

本年度の臨時代議員総会を、令和3年3月16日学士会館において開催致しました。当日の出席代議員29名、書面等による議決権行使代議員59名、合計88名の出席により総会が成立し、次の議案を諮りそれぞれ承認可決致しました。

- 議案1 令和3年度事業計画案及び予算案について
- 議案2 理事の補充選任について
- 報 告 学士会館の再開発問題の進捗状況について

(3) 理 事 会

本年度は次の通り開催し、諸般の会務について審議決定致しました。

□4月理事会

令和2年4月23日開催予定の4月理事会は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う「緊急事態宣言」の発出及び東京都による自粛要請を受けての学士会館の休館措置等を踏まえ、理事長判断により、開催を中止しました。

その上で、全理事及び全監事了承のもと当日審議予定であった議案の一部（審議事項及び報告事項）につき、「電磁的方法」による審議を行い、各議案とも承認及び了承致しました。

1. 「令和2年度（2020年度）通常代議員総会の開催について」

- ・令和元年度事業報告、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録及び財務諸表の注記の承認
- ・任期満了に伴う理事の選任について
- ・任期満了に伴う監事の一部改選について

報告（1）「会報編集委員会」の委員長交代について

□5月理事会

令和2年5月28日開催予定の5月理事会は、新型コロナ感染対策として、理事長判断により、開催を中止致しました。

その上で、4月理事会同様に全理事及び全監事に対して当日審議予定であった議案に対する賛否を求め、両議案とも全員の同意に基づき原案通り承認致しました。

1. 「令和2年度通常代議員総会」提案議案の承認
2. (株) 学士会館精養軒の第69期定時株主総会議案の承認

□6月理事会(令和2年6月18日)

1. (定款第27条第2項に基づく) 理事長の選任について
2. (定款第27条第2項に基づく) 副理事長及び常務理事の選任について
3. 会報編集委員会委員他、委員会委員の選任について
4. (株) 学士会館精養軒との「受託業務納付金」の見直しについて

□7月理事会(令和2年7月16日)

1. 令和2年度・第一四半期(4月～6月)会計報告
2. (定款第6条第1項第6号による)「特選入会希望者」について
3. (理事会における書面決議を可能にする)「定款改定」について
4. S社との「基本合意書」締結に関する実務者協議の状況及び再開発関連の今後の課題等について

報告(1) 第一四半期(4月～6月)の会員数動向等について

(2) 「会員増強実行委員会」からの報告

(3) 「第59回全国七大学総合体育大会(七大戦)」の中止について

□9月理事会(令和2年9月24日)

1. 学士会館の経営問題について
2. (株) 学士会館精養軒による楽友会館内施設「近衛Latin」の受託業務の終了について
3. S社との共同開発協議の進展状況について(報告)
4. 「デジタル版会員名簿」(Web名簿閲覧システム)の導入とその概要について
5. (理事会の書面決議を可能にする)「定款変更手続き」の実施について
6. 「特選入会希望者」について—7月理事会継続議案他—

報告(1) 新総長の選任状況について(京大・九大・北大)

(2) 「地域講演会」の開催有無等について

□10月理事会(令和2年10月22日)

1. 「定款変更案」に対する代議員による書面決議結果について
2. 令和2年度上半期決算報告及び令和2年度上半期資金運用状況並びに下半期資金運用計画(案)について
—併せて(株) 学士会館精養軒の令和2年度上半期決算報告—
3. 「第10回・11回学士会館再開発委員会」報告
及びS社との「基本協議合意書」締結に向けた交渉状況

報告(1) 令和2年度上半期会員数増減報告

□11月理事会(令和2年11月26日)

1. 長尾理事からの退任申出について
2. 学士会館の10月営業状況について(報告)
3. (株) 学士会館精養軒に対する資金融資(運転資金)の実行について
4. 学士会館の再開発問題について—S社との交渉状況等

5. 令和2年度「臨時代議員総会」の開催について
 6. 令和3年度（2021年）理事会等の会議日程について
- 報告（1）「地域講演会」の開催予定について

□1月理事会

令和3年1月28日（木）開催予定であった「1月理事会」は、新型コロナウイルス感染症の蔓延による「緊急事態宣言」の再発出を受け、定款40条に定める「みなし決議—決議の省略」を適用し、書面決議方式にて実施の上、全議案を承認・決定致しました。

1. 令和2年度決算見直し
 2. 令和2年度第3四半期 学士会館の営業状況
及び（株）学士会館精養軒の令和3年度予算編成方針
 3. 令和2年度臨時代議員総会議題
 4. 学士会館の再開発事業の検討状況
- 報告（1）令和2年度第3四半期の会員数増減

□2月理事会（令和3年2月25日）

1. 令和3年度事業計画案について
2. 令和3年度予算案及び資金計画案について
3. 理事の補充選任について
4. 学士会館の再開発問題の進捗状況について

報告（1）「会員増強」について

（2）「地域講演会（名古屋講演会・九州講演会）」の開催について

□3月理事会（令和3年3月16日）

1. 「学士会の今後のあり方検討会（仮）」の立ち上げについて

報告（1）学士会館の再開発問題に対する「コンサルタント業務委託契約」の1年更新について

（2）（本日開催）臨時代議員総会について

（4）監事会

令和2年5月28日に予定をしていました「監事会」は、新型コロナ感染対策として、全監事了承のもと、理事長判断により開催を中止致しました。

なお、当日審議予定であった以下の各議案については、全監事の承認により各々確認・決定致しました。

1. 監査法人からの報告
2. 令和元年度決算報告（平成31年4月1日～令和2年3月31日）
令和元年度貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録及び財務諸表の注記の検査
3. 「公益目的支出計画実施報告書」の内容について
4. 代議員総会第3号議案（任期満了に伴う監事2名の選任）について

（5）常務会

毎月定期的に常務会を開催し、理事会提出議案の審議等、種々の会務を審議し必要事項を決定致しました。

(6) 諸委員会

ア. 会報編集委員会

本年度は次の通り開催し、種々検討・協議の上、各号の執筆候補者を決定致しました。

第1回	令和	2年	6月18日	会報第945号
第2回	令和	2年	7月16日	会報第946号
第3回	令和	2年	9月24日	会報第947号
第4回	令和	2年	11月26日	会報第948号
第5回	令和	3年	1月28日	会報第949号
第6回	令和	3年	3月16日	会報第950号

イ. 会員増強実行委員会

本年度は、新型コロナ感染対策による開催中止もあり、結果、次の通り1回の開催となりましたが、会員増強に向けての各種施策について協議を行いました。

また、『NU7』については、編集担当委員による内容確認の上で、隔月で発行しています。

第30回	令和	2年	4月22日	(新型コロナ感染対策のため中止)
第31回	令和	3年	2月2日	(オンライン併用で開催)

ウ. 学士会館再開発委員会

本年度は、以下の通り合計7回の委員会を開催し、隣地所有者との共同開発の実現性の検討協議を中心に学士会館の整備・再開発に向けた具体的な活動を行いました。また、今般のコロナ禍による本会の財務状況の悪化や不動産市場への影響等を考慮し、当初の再開発計画案の再検証を、各担当部会（財務・建築）を通じて行いました。なお、新型コロナ感染対策として、令和2年4月から6月まで休会致しました。

第9回	令和	2年	7月16日
第10回	令和	2年	9月24日
第11回	令和	2年	10月22日
第12回	令和	2年	11月26日
第13回	令和	3年	1月28日
第14回	令和	3年	2月25日
第15回	令和	3年	3月24日

エ. 趣味同好会

令和2年12月1日に撞球、囲碁、将棋、俳句、漢詩、短歌、落語の各会と、新たに探訪、謡曲の2つの同好会を加え、それぞれの会における年間優秀会員に理事長杯を授与し、その後、懇親会を開催し懇談を行いました。

5. 会 員

本年度における正会員の増減及び年度末正会員数は次の通りです。*カッコ内は前年度実績

新 会 員	370名	(639名)
逝 去 会 員	652名	(726名)
退 会 会 員	1,079名	(1,139名)
会費長期未納退会者	249名	(274名)
差 引 減	1,610名	(1,500名)
現 在 会 員 数	41,296名	(内 終身会員6,060名)

(注:「終身会員」の内、戦前に制定された終身会員制度による加入者が343名、平成21年度より新たに制度化された「新終身会員」が5,717名になります)

学 生 会 員 3,807名

(注:3月卒業・修了予定の551名を含めた会員数になります)

6. そ の 他

本会は、(株)学士会館精養軒に学士会館の運營業務を委託しておりますが、平成16年2月以降、本会が同社の株式を100%保有しております。同社の概要は次の通りです。

[株式会社 学士会館精養軒の概要] (令和3年3月31日現在)

- 名 称 株式会社学士会館精養軒
- 所 在 東京都千代田区神田錦町3-28
- 代表者 代表取締役社長 小堀 康生
- 資本金 10,000,000円
- 売上高 380,394千円 (令和2年度決算)

(株) 学士会館精養軒の令和2年度の営業結果は、次の通りです。

- 令和2年度 (令和2年4月1日~令和3年3月31日) 決算
 - ・売上高 380,394千円 (前年度: 1,491,003千円)
 - ・営業利益 Δ 425,771千円 (同 : Δ 56,429千円)
 - ・経常利益 Δ 339,703千円 (同 : Δ 50,098千円)

なお、本会との取引関係については、「令和2年度決算報告」における「財務諸表の注記」をご参照下さい。

Ⅱ. 令和2年度 決算報告 (令和2年4月1日～令和3年3月31日)

貸借対照表

(令和3年3月31日現在)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	147,681,212	220,500,179	△ 72,818,967
未収金	15,680,685	33,376,971	△ 17,696,286
未収消費税等	2,330,200	3,874,800	△ 1,544,600
前払費用	2,586,834	2,804,665	△ 217,831
仮払金	0	384,610	△ 384,610
流動資産合計	168,278,931	260,941,225	△ 92,662,294
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
土地	432,393,320	432,393,320	0
建物	341,775,927	391,052,141	△ 49,276,214
基本財産合計	774,169,247	823,445,461	△ 49,276,214
(2) 特定資産			
建物改築引当特定資産	1,528,689,600	1,529,641,600	△ 952,000
建物設備修繕特定資産	985,069,919	1,299,279,742	△ 314,209,823
会員活動強化特定資産	290,722,341	282,123,888	8,598,453
終身会費特定資産	107,580,000	108,340,000	△ 760,000
退職給付引当特定資産	71,750,000	86,562,750	△ 14,812,750
役員退職慰労引当特定資産	5,220,430	4,641,264	579,166
特定資産合計	2,989,032,290	3,310,589,244	△ 321,556,954
(3) その他固定資産			
什器備品	47,183,340	56,038,027	△ 8,854,687
一括償却資産	2,380,105	3,897,944	△ 1,517,839
ソフトウェア	14,115,742	12,375,636	1,740,106
子会社株式	16,000	16,000	0
長期貸付金	250,000,000	0	250,000,000
その他固定資産合計	313,695,187	72,327,607	241,367,580
固定資産合計	4,076,896,724	4,206,362,312	△ 129,465,588
資産合計	4,245,175,655	4,467,303,537	△ 222,127,882

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	24,091,966	18,682,251	5,409,715
前受金	182,320	425,080	△ 242,760
預り金	871,067	809,619	61,448
仮受金	0	408,000	△ 408,000
賞与引当金	4,205,000	6,695,000	△ 2,490,000
流 動 負 債 合 計	29,350,353	27,019,950	2,330,403
2. 固定負債			
退職給付引当金	71,750,000	86,562,750	△ 14,812,750
役員退職慰労引当金	5,220,430	4,641,264	579,166
固 定 負 債 合 計	76,970,430	91,204,014	△ 14,233,584
負 債 合 計	106,320,783	118,223,964	△ 11,903,181
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
2. 一般正味財産	4,138,854,872	4,349,079,573	△ 210,224,701
(うち基本財産への充当額)	(774,169,247)	(823,445,461)	(△49,276,214)
(うち特定資産への充当額)	(2,912,061,860)	(3,219,385,230)	(△307,323,370)
正 味 財 産 合 計	4,138,854,872	4,349,079,573	△ 210,224,701
負債及び正味財産合計	4,245,175,655	4,467,303,537	△ 222,127,882

正味財産増減計算書

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益			
特定資産受取利息	25,041,677	24,997,522	44,155
② 受取会費収益			
普通会費収益	144,584,000	149,733,900	△ 5,149,900
終身会費収益	13,150,000	15,300,000	△ 2,150,000
③ 会館運営収益			
業務委託固定収益	81,680,000	273,660,000	△ 191,980,000
業務委託変動収益	11,102,033	43,745,226	△ 32,643,193
④ 事業収益			
講演会等収益	3,947,935	19,095,192	△ 15,147,257
会報等広告料収益	6,094,487	7,003,887	△ 909,400
同好会費収益	597,807	1,087,772	△ 489,965
氏名録発行収益	19,095	11,062	8,033
⑤ 雑収益			
受取利息	2,112	2,413	△ 301
補助金収益	2,000,000	17,207,000	△ 15,207,000
受取寄付金	1,282,409	0	1,282,409
その他収益	2,404,387	6,336,198	△ 3,931,811
経常収益計	291,905,942	558,180,172	△ 266,274,230
(2) 経常費用			
① 事業費			
役員報酬	1,721,566	2,479,042	△ 757,476
給与手当	75,418,780	84,171,844	△ 8,753,064
賞与引当金繰入額	3,111,700	4,954,300	△ 1,842,600
退職給付費用	3,555,700	2,989,600	566,100
福利厚生費	12,079,110	14,252,368	△ 2,173,258
旅費交通費	2,259,971	2,439,390	△ 179,419
電話費	654,130	649,120	5,010
減価償却費	69,391,262	70,874,270	△ 1,483,008
什器備品費	563,566	723,765	△ 160,199
事務用品費	368,121	471,657	△ 103,536
消耗品費	3,525,798	4,492,219	△ 966,421
図書費	145,134	415,105	△ 269,971
営繕費	8,327,414	27,948,217	△ 19,620,803
施設保守費	75,054,100	78,551,740	△ 3,497,640
給水冷暖房費	9,203,333	20,156,434	△ 10,953,101
電灯電力費	22,547,572	31,339,283	△ 8,791,711
保険料	1,203,830	1,213,110	△ 9,280
租税公課	62,527,100	63,225,300	△ 698,200
会報費	49,170,349	50,898,633	△ 1,728,284
氏名録関連費	311,158	1,900	309,258
講演会等経費	5,051,632	19,247,607	△ 14,195,975
会員活動強化費	3,204,604	5,793,151	△ 2,588,547
七大学支援費	0	7,505,000	△ 7,505,000
システム管理費	5,731,538	5,823,740	△ 92,202
会場施設使用料	660,000	1,406,000	△ 746,000
事業費計	415,787,468	502,022,795	△ 86,235,327

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
② 管理費			
役員報酬	4,754,445	5,511,957	△ 757,512
給与手当	26,498,493	29,573,899	△ 3,075,406
賞与引当金繰入額	1,093,300	1,740,700	△ 647,400
役員退職慰労引当金繰入額	816,666	820,835	△ 4,169
退職給付費用	1,249,300	1,050,400	198,900
福利厚生費	5,125,619	6,212,975	△ 1,087,356
旅費交通費	1,553,474	1,498,689	54,785
会議費	3,042,742	4,880,093	△ 1,837,351
賃借料	115,628	115,628	0
電話費	280,337	278,198	2,139
減価償却費	4,235,248	4,173,933	61,315
事務用品費	157,769	202,142	△ 44,373
給水冷暖房費	284,650	623,406	△ 338,756
電灯電力費	697,353	969,261	△ 271,908
租税公課	19,800,096	20,450,506	△ 650,410
会員証作成費	1,163,198	1,155,733	7,465
集金費	4,763,549	5,060,102	△ 296,553
業務報酬料	5,657,909	4,950,000	707,909
会館整備検討費	955,055	830,812	124,243
システム管理費	5,077,259	5,153,223	△ 75,964
雑費	1,322,938	2,144,367	△ 821,429
管理費計	88,645,028	97,396,859	△ 8,751,831
経常費用計	504,432,496	599,419,654	△ 94,987,158
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 212,526,554	△ 41,239,482	△ 171,287,072
特定資産評価損益等	7,931,600	△ 45,825,200	53,756,800
当期経常増減額	△ 204,594,954	△ 87,064,682	△ 117,530,272
2.経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
① 基本財産除却損	1,052,976	15,458,149	△ 14,405,173
② 特定資産売却損	2,250,000	720,000	1,530,000
③ 固定資産除却損	2,186,771	639,554	1,547,217
経常外費用計	5,489,747	16,817,703	△ 11,327,956
当期経常外増減額	△ 5,489,747	△ 16,817,703	11,327,956
税引前一般正味財産増減額	△ 210,084,701	△ 103,882,385	△ 106,202,316
法人税・住民税及び事業税	140,000	140,000	0
当期一般正味財産増減額	△ 210,224,701	△ 104,022,385	△ 106,202,316
一般正味財産期首残高	4,349,079,573	4,453,101,958	△ 104,022,385
一般正味財産期末残高	4,138,854,872	4,349,079,573	△ 210,224,701
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	4,138,854,872	4,349,079,573	△ 210,224,701

正味財産増減計算内訳書
(令和2年4月1日から令和3年3月31日)

(単位:円)

科目	実施事業等会計			その他事業会計					法人会計	合計
	会報発行事業	寄附事業	小計	会館運営事業	講演会等事業	会員親睦事業	七大学支援事業	その他事業		
I一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1) 経常収益										
①特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	25,041,677	25,041,677
②受取会費収益	0	0	0	0	0	0	0	0	157,734,000	157,734,000
③会館運営収益	0	0	0	92,782,033	0	0	0	0	0	92,782,033
④事業収益	6,094,487	0	6,094,487	0	3,111,114	1,113,722	0	340,001	0	10,659,324
⑤雑収益	0	0	0	2,000,000	0	0	1,282,409	0	2,406,499	5,688,908
経常収益計	6,094,487	0	6,094,487	94,782,033	3,111,114	1,113,722	1,282,409	340,001	185,182,176	291,905,942
(2) 経常費用										
①事業費	95,684,125	0	95,684,125	248,981,917	19,110,247	26,415,560	19,556,593	6,039,026	320,103,343	415,787,468
役員報酬	1,218,628	0	1,218,628	150,881	150,881	100,587	100,589	0	502,938	1,721,566
給与手当	30,167,512	0	30,167,512	20,363,070	9,804,441	6,787,690	6,787,690	1,508,377	45,251,268	75,418,780
賞与引当金繰入額	1,244,680	0	1,244,680	840,159	404,521	280,053	280,053	62,234	1,867,020	3,111,700
退職給付費用	1,422,280	0	1,422,280	960,039	462,241	320,013	320,013	71,114	2,133,420	3,555,700
福利厚生費	4,831,644	0	4,831,644	3,261,359	1,570,284	1,087,119	1,087,118	241,586	7,247,466	12,079,110
旅費交通費	723,190	0	723,190	610,192	293,796	316,395	248,596	67,802	1,536,781	2,259,971
電話費	189,697	0	189,697	0	163,532	209,321	13,083	78,497	464,433	654,130
減価償却費	1,387,825	0	1,387,825	49,267,796	693,912	10,408,689	6,245,213	1,387,827	68,003,437	69,391,262
什器備品費	0	0	0	563,566	0	0	0	0	563,566	563,566
事務用品費	106,755	0	106,755	0	92,030	117,798	7,362	44,176	261,366	368,121
消耗品費	0	0	0	2,820,638	352,579	352,581	0	0	3,525,798	3,525,798
図書費	0	0	0	145,134	0	0	0	0	145,134	145,134
営繕費	0	0	0	8,327,414	0	0	0	0	8,327,414	8,327,414
施設保守費	0	0	0	75,054,100	0	0	0	0	75,054,100	75,054,100
給水冷暖房費	184,066	0	184,066	6,534,366	92,033	1,380,499	828,299	184,070	9,019,267	9,203,333
電灯電力費	450,951	0	450,951	16,008,776	225,475	3,382,135	2,029,281	450,954	22,096,621	22,547,572
保険料	0	0	0	1,203,830	0	0	0	0	1,203,830	1,203,830
租税公課	0	0	0	62,527,100	0	0	0	0	62,527,100	62,527,100
会報費	49,170,349	0	49,170,349	0	0	0	0	0	0	49,170,349
氏名録関連費	0	0	0	0	0	311,158	0	0	311,158	311,158
講演会等経費	0	0	0	0	4,036,275	897,275	0	118,082	5,051,632	5,051,632
会員活動強化費	0	0	0	0	0	0	1,552,047	1,652,557	3,204,604	3,204,604
システム管理費	4,586,548	0	4,586,548	343,497	286,247	286,247	57,249	171,750	1,144,990	5,731,538
会場施設使用費	0	0	0	0	482,000	178,000	0	0	660,000	660,000

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

①子会社株式：原価法によっている。

②その他有価証券：期末の市場価格等に基づく時価法によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

建物及び什器備品：定率法によっている。但し、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用している。また税法上の一括償却資産に該当するものは、3年間の均等償却によっている。

無形固定資産

ソフトウェア：法人内における利用可能期間（5年）に基づき定額法によっている。

(3) 引当金の計上基準

①賞与引当金：職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

②退職給付引当金：職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末に発生していると認められる額を計上している。なお、退職給付債務は期末自己都合要支給額に基づいて計算している。

③役員退職慰労引当金：役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっている。

(5) 実施事業資産

学士会館の面積2%相当を事務スペースとして使用。

（土地 8,647,866 円 建物 6,835,518 円）

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
土 地	432,393,320	—	—	432,393,320
建 物	391,052,141	2,495,363	51,771,577	341,775,927
小 計	823,445,461	2,495,363	51,771,577	774,169,247
特定資産				
建物改築引当特定資産	1,529,641,600	5,460,000	6,412,000	1,528,689,600
建物設備修繕特定資産	1,299,279,742	11,985,600	326,195,423	985,069,919
会員活動強化特定資産	282,123,888	15,442,653	6,844,200	290,722,341
終身会費特定資産	108,340,000	13,300,000	14,060,000	107,580,000
退職給付引当特定資産	86,562,750	4,655,000	19,467,750	71,750,000
役員退職慰労引当特定資産	4,641,264	800,000	220,834	5,220,430
小 計	3,310,589,244	51,643,253	373,200,207	2,989,032,290
合 計	4,134,034,705	54,138,616	424,971,784	3,763,201,537

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
基本財産				
土 地	432,393,320	—	(432,393,320)	—
建 物	341,775,927	—	(341,775,927)	—
小 計	774,169,247	—	(774,169,247)	—
特定資産				
建物改築引当特定資産	1,528,689,600	—	(1,528,689,600)	—
建物設備修繕特定資産	985,069,919	—	(985,069,919)	—
会員活動強化特定資産	290,722,341	—	(290,722,341)	—
終身会費特定資産	107,580,000	—	(107,580,000)	—
退職給付引当特定資産	71,750,000	—	—	(71,750,000)
役員退職慰労引当特定資産	5,220,430	—	—	(5,220,430)
小 計	2,989,032,290	—	(2,912,061,860)	(76,970,430)
合 計	3,763,201,537	—	(3,686,231,107)	(76,970,430)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	2,201,961,741	1,860,185,814	341,775,927
什器備品	285,638,104	238,454,764	47,183,340
一括償却資産	12,523,079	10,142,974	2,380,105
ソフトウェア	82,170,213	68,054,471	14,115,742
合計	2,582,293,137	2,176,838,023	405,455,114

5. 関連当事者との取引の内容

関連当事者との取引の内容は、次のとおりである。

(単位：円)

属性	法人等の名称	住所	資産総額	事業内容
子会社	株式会社 学士会館精養軒	東京都千代田区神田錦町 3-28-1	446,696,335	飲食業・旅館他

議決権所有割合	関係内容	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
100%	会館運営の委託	会館運営に伴う 施設貸与(※)	91,102,033	未収金	10,329,794
	資金の援助	資金の貸付	—	長期貸付金	250,000,000

上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税が含まれている。

取引条件及び取引条件の決定方針等

(※) 価格その他の取引は、市場実勢を参考に当会が希望価格を提示し、価格交渉の上で決定している。

6. 退職給付関係

(1) 採用している退職給付制度の概要

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

(2) 退職給付債務及びその内訳

(単位：円)

①退職給付債務	△ 71,750,000
②会計基準変更時差異の未処理額	0
③退職給付引当金(①+②)	△ 71,750,000

(3) 退職給付費用に関する事項

(単位：円)

①勤務費用	4,655,000
②会計基準変更時差異の費用処理額	0
③退職給付費用 (①+②)	4,655,000

(4) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付債務の計算に当たっては、退職一時金制度に基づく期末自己都合要支給額を基礎として計算している。

7. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当法人は、法人運営の財源の一部を運用益によって賄うため、債券、仕組債により資産運用する。

当法人が利用するデリバティブ取引は、仕組債のみであり、一定の金額を限度としている。なお、投機目的のデリバティブ取引は行わない方針である。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

特定資産の一部は、債券、仕組債であり、発行体の信用リスク、市場リスク（金利の変動リスク、為替の変動リスク及び市場価格の変動リスク）がある。

(3) 金融商品のリスクに係る管理体制

①資金管理規程に基づく取引

金融商品の取引は、当法人の資金管理規程に基づき行う。

②信用リスクの管理

発行体の信用情報や時価の状況を定期的に把握し、理事会に報告する。

③市場リスクの管理

関連する市場の動向を定期的に把握し、理事会に報告する。

附 属 明 細 書

1. 基本財産及び特定資産明細

財務諸表に対する注記に記載しているため、附属明細での記載を省略している。

2. 引当金明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
賞 与 引 当 金	6,695,000	4,205,000	6,695,000	4,205,000
退 職 給 付 引 当 金	86,562,750	4,655,000	19,467,750	71,750,000
役員退職慰労引当金	4,641,264	800,000	220,834	5,220,430
合 計	97,899,014	9,660,000	26,383,584	81,175,430

財 産 目 録

(令和3年3月31日現在)

(単位：円)

科	目	金 額	
I 資 産 の 部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金	(手許有高)	1,568,313	
振替貯金	(ゆうちょ銀行)	9,232,121	
普通預金	(三菱UFJ銀行他)	136,880,778	
未収金	(会館運営収入未収分他)	15,680,685	
未収消費税等	(令和2年度還付消費税)	2,330,200	
前払費用	(損害保険、前払交通費他)	2,586,834	
流動資産合計			168,278,931
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
土地	(千代田区神田錦町三丁目 28番1, 28番2, 28番3, 28番4, 敷地3,399.97㎡)	432,393,320	
建物	(千代田区神田錦町三丁目 28番地1学生会館建物地下1 階付5階建延9,337.47㎡)	341,775,927	
基本財産合計		774,169,247	
(2) 特定資産			
建物改築引当特定資産	(第311回利付国債(10年)他)	1,528,689,600	
建物設備修繕特定資産	(第144回三菱東京UFJ銀行債他)	985,069,919	
会員活動強化特定資産	(第27回三井住友銀行債他)	290,722,341	
終身会費特定資産	(三井住友銀行定期預金他)	107,580,000	
退職給付引当特定資産	(三井住友銀行普通預金他)	71,750,000	
役員退職慰労引当特定資産	(三菱UFJ銀行普通預金)	5,220,430	
特定資産合計		2,989,032,290	
(3) その他固定資産			
什器備品	(家具、電気製品他)	47,183,340	
一括償却資産	(職員PC、LANケーブル配線他)	2,380,105	
ソフトウェア	(会員/氏名録DB他)	14,115,742	
子会社株式	(榊学生会館精養軒)	16,000	
長期貸付金	(榊学生会館精養軒)	250,000,000	
その他固定資産合計		313,695,187	
固定資産合計			4,076,896,724
資 産 合 計			4,245,175,655
II 負 債 の 部			
1. 流動負債			
未払金	(各業者に対する未払額)	24,091,966	
前受金	(令和3年度会報分譲他)	182,320	
預り金	(源泉所得税・住民税)	871,067	
賞与引当金	(職員15名分)	4,205,000	
流動負債合計			29,350,353
2. 固定負債			
退職給付引当金	(職員15名分)	71,750,000	
役員退職慰労引当金	(役員18名分)	5,220,430	
固定負債合計			76,970,430
負 債 合 計			106,320,783
正 味 財 産			4,138,854,872

令和3年5月27日

一般社団法人 学士会
理事長 佐々木 毅 殿

一般社団法人 学 士 会

監 事 岡 田 明 重

監 事 橋 本 徹

監 事 福 井 俊 彦

監 事 三 木 繁 光

監 査 報 告

私たち監事は、令和2年4月1日から令和3年3月31日までの当法人の事業年度の事業報告、計算書類、附属明細書、公益目的支出計画実施報告書その他理事の職務の執行について監査を行いましたので、以下の通り報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及びその使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要会議に出席し、理事等からその職務の執行について報告を受け、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の調査を行い、当該事業年度の事業報告及びその附属明細書の妥当性を検討いたしました。さらに会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類及びその附属明細書並びに公益目的支出計画実施報告書について監査を行った。

2 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- (3) 計算書類及びその附属明細書は当法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。
- (4) 公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、当法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

以上

第2号議案

任期満了に伴う理事1名の選任について

現任理事15名中、本代議員総会終結の時をもって小野寺正理事が任期満了となりますので、理事1名の選任をお願いいたします。

なお、定款第26条の定めにより、本会の理事定数は10名以上15名以内となっております。

候補者は次のとおりです。

候補者 番号	氏名	出身大学・学部 卒年等	略歴、本会における役職等
1 再任	おの ^の で ^ら 小野寺 た ^だ し 正	東北大学 工学部 昭和45年卒	学士会 理事 元KDDI株式会社代表取締役社長 兼 会長

第3号議案

任期満了に伴う監事2名の選任について

現任監事4名のうち、本代議員総会終結の時をもって橋本徹監事及び福井俊彦監事の2名が任期満了となりますので、監事2名の選任をお願いいたします。

本議案につきましては、監事全員の同意を得ております。

候補者は次のとおりです。

候補者 番号	氏 名	出身大学・学部 卒年等	略歴、本会における役職等
1 再任	はしもと 橋本 とおる 徹	東京大学 法学部 昭和32年卒	学士会 監事 みずほフィナンシャルグループ名誉顧問 元日本政策投資銀行相談役
2 再任	ふくい 福井 としひこ 俊彦	東京大学 法学部 昭和33年卒	学士会 監事 キャノングローバル戦略研究所理事長 元日本銀行総裁

第4号議案 学士会選挙管理委員会委員 及び 選挙区委員会委員の推薦について

本年6月末日をもって任期満了となる選挙管理委員会委員及び選挙区委員会委員について「学士会代議員選挙規則」第5条第3項並びに第6条第3項の規定に基づき、以下の候補者を推薦致します。

1. 選挙管理委員会委員

□推薦候補者 (敬称略)

氏名	選挙区	学部・卒年	区分	経歴等
濱田 純一	東京大学	法・47	新	放送倫理・番組向上機構理事長 元東京大学総長
児嶋 眞平	京都大学	工・34	再	京都大学名誉教授 元福井大学学長
里見 進	東北大学	医・49	再	日本学術振興会理事長 前東北大学総長
有川 節夫	九州大学	理・39	新	放送大学学園理事長 元九州大学総長
佐伯 浩	北海道大学	工・39	新	北海道大学名誉教授 元北海道大学総長
平野 俊夫	大阪大学	医・47	再	量子科学技術研究開発機構理事長 前大阪大学総長
郷 通子	名古屋大学	理修・39	新	名古屋大学名誉教授/ 元理事 元お茶の水女子大学学長

2. 選挙区委員会委員

(1) 東京大学選挙区 推薦候補者（敬称略：卒年順）

氏名	学部・卒年	区分	特記	経歴等
伊藤 誠	経・34	再		東京大学名誉教授
青山 善充	法・37	再	代議員	東京大学名誉教授
尾嶋 正治	工・47	新	代議員	東京大学名誉教授
相原 博昭	理・53	再		東京大学理事・副学長
藤垣 裕子	教養・60	新		東京大学理事・副学長

(2) 京都大学選挙区 推薦候補者（敬称略：卒年順）

氏名	学部・卒年	区分	特記	経歴等
林田 英樹	法・41	再		(公社)日本工芸会理事長／元文化庁長官
家村 浩和	工・43	再		元近畿職業能力開発大学校校長
金田 章裕	文・44	再	代議員	元人間文化研究機構機構長
宮地 良樹	医・52	新		静岡県社会健康医学大学院大学学長
稲垣 恭子	教育・53	新		京都大学理事・副学長

(3) 東北大学選挙区 推薦候補者（敬称略：卒年順）

氏名	学部・卒年	区分	特記	経歴等
大槻 幹雄	工・29	再	代議員	元富士通(株)代表取締役副社長
川村 恒明	法・34	再		元文化庁長官・元国立科学博物館館長
菊池 武剋	文・43	再		東北大学名誉教授
菅村 和夫	医・45	新		元宮城県立がんセンター総長
野家 啓一	理・46	再		東北大学教養教育院総長特命教授

(4) 九州大学選挙区 推薦候補者（敬称略：卒年順）

氏名	学部・卒年	区分	特記	経歴等
靱井 勝人	経・40	再	代議員	前日本放送協会会長
荒殿 誠	理・50	再		九州大学理事・副学長
塚本 修	工・52	再		(一財)石炭エネルギーセンター理事長
福田 晋	農・55	新		九州大学理事・副学長
萩島 理	工・H4	新		九州大学大学院総合理工学研究院教授

(5) 北海道大学選挙区 推薦候補者（敬称略：卒年順）

氏名	学部・卒年	区分	特記	経歴等
沢 邦彦	工・34	再	代議員	元富士電機(株)社長／月島機械(株)顧問
柿田 章	医・38	再		いわき湯本病院名誉院長
佐藤 征紀	工・39	再		(特非)BHN テレコム支援協議会理事長
堀田 国元	農・42	再	代議員	(一財)機能水研究振興財団理事長
山口 淳二	※農・58	新		北海道大学理事・副学長

※山口氏の卒業大学は名古屋大学

(6) 大阪大学選挙区 推薦候補者（敬称略：卒年順）

氏名	学部・卒年	区分	特記	経歴等
江口 順一	法・33	再		大阪大学名誉教授
楠本 正一	理・38	再		大阪大学名誉教授
日納 義郎	工・42	再	代議員	住友重機械工業(株)相談役
恵比須 繁之	歯・47	再		大阪大学大学院歯学研究科特任教授
井上 ゆかり	経・60	再	代議員	日本ケロッグ(同)代表職務執行者社長

(7) 名古屋大学選挙区 推薦候補者（敬称略：卒年順）

氏名	学部・卒年	区分	特記	経歴等
片岡 大造	法・37	再	代議員	前名大全学同窓会関東支部事務局長
奥村 洋彦	経・39	再	代議員	学習院大学名誉教授
横田 昭	工・42	再		伊藤忠商事(株)理事／元名古屋大学理事
石川 靖文	農・50	再		(一社)日本開発工学会監事
岡山 朋子	法・H6	新		大正大学教授（地域創生学部）

(参考)「学士会代議員選挙規則」

第5条（選挙管理委員会）

3項 選挙管理委員会の委員は、各選挙区に所属する正会員から各1名を、代議員会の推薦に基づき理事長が委嘱する。

第6条（選挙区委員会）

1項 各選挙区に5人の委員で組織する選挙区委員会を置く。

3項 選挙区委員会の委員は、当該選挙区に所属する正会員から、代議員会の推薦に基づき理事長が委嘱する。この場合、代議員である者を2名を超えて委嘱することはできない。

